

平成30年11月22日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 加藤 啓子 様

議会報告会 1班
班長 近藤 美保
藤井 俊行
坂巻 儀一
乾 紳一郎
斉藤 真理
加藤 啓子

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成30年11月11日（日）
午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所 生涯学習センター（流山エルズ）C207
- 3 欠席議員 なし
- 4 来場者数 市民来場者 13人
議員・職員 1人
- 5 報告内容
1. 「次期総合計画の策定に向けて」坂巻議員
(1) 総合計画の定義とスケジュール
(2) 将来人口推計

(3) 市民意識調査と意見交換会

(4) 基礎調査報告書から

2. 意見交換

6 質疑・応答

○市民 A

・次期総合計画は、平成32年度からの総合計画ということだが、現在、どの段階にあるのか？

●議員

・市民からの意見聴取の第一段階（無作為抽出の市民や、中高生による意見徴収）は、すでに終わっているが、今後の策定に向けて、市民の声は、今後も聞いていかなければならない。

○市民 A

・案があって、それについてのパブリックコメントを市民に求める手順と認識しているが。

●議員

・次期総合計画（案）がまとまった時点で、パブリックコメントを実施すると思うが、現時点でも、市民の声についての聴取は、まだまだ不十分ではないかと考えている。

●議員

・案が決まった後でも市民の声を聞くことが必要。
・それ以前に、流山市は、20年間の総合計画の総括を出していない。
・将来の都市像を示すものが、現在示されていない為に、市民は意見が言いにくいのではないか。

●議員

・基礎調査については、シンクタンクが分析した上で、出しているものなので、一概に総括していないとは言えないのではないか。

○市民 B

・平成32年度からの将来像、総合計画策定後の人口分布の説明

があったが、長期にわたって、流山市の課題として、発生すると思われる課題はあるか？

●議員

- ・数字通りにはいかない。災害もある。あくまで推計
- ・策定後は、毎年見直しをしていく。

●議員

- ・課題は、世代や人によっても違う
- ・要望のトップに挙がっている、「安心・安全の街づくり」を、市は重視しているが、市としては、「都心から一番近い森の街」を将来の都市像として掲げている。
- ・審議会では、その点を議論している。

●議員

- ・このような場で、「審議会の情報を市民と共有してほしい」など、声を聞かせてほしい
- ・次期総合計画には、様々なテーマが有るので、今回の説明は、そのすべての資料を網羅しているわけではない。
- ・現在の流山市は（限られた地域、限られた世代に固定しすぎることで）他世代間や、地域横断的な、きめ細やかさが足りない。地域ごとの課題や特色が有るのに、ひとくくりにすることも課題ではないか

●議員

- ・子どもの急増、高齢化など、両極端な時代の中で、小中学校の新設など、喫緊の課題が多すぎる。

○市民 C

- ・将来の都市像「都心から一番近いもりのまち」と言うが、流山市をこれから維持していくには、成長点を維持していくことが大事。それには、若い人のニーズを把握する事が重要と考える。
- ・次期総合計画（案）は、現状課題の取りまとめにすぎない。若い人が、もっと流山市を振り向く街にならなければならない。流山に行ってみたい、住みたい、そう思える街づくりが大切。
- ・今の流山市には、物語性がない。市民文化の醸成が重要。
- ・以前、ある市で、文化ホールや体育館の建設に向けての審議会

に携わった。その市では、市民が誇りを持っていた。現在の流山市民に誇りは有るのか

○市民 D

- ・流山市は、本町の活気を取り戻す為のイベントをやっているが、中途半端なのではないか。
- ・お金をかけても、継続性や発展性が無いように思う。
- ・本町の不便さも課題である。バス便も取り残されている。1時間に1本では利用しにくい。(本町でのイベントに、より多くの人を呼び込もうとしても、交通の不便さがネックとなっている。) もっと、バス会社に真剣に訴えてほしい
- ・流山市には、魅力的な資源が沢山ある。
- ・「みりん」は、世界的に注目され始めている。同時に、貴腐ワインなど、甘みのあるデザートワインなども注目されている。「みりん」は、貴腐ワインの一つとして、商品化できるのではないか。
- ・観光の目玉として、「みりん」と、「新撰組」があれば、世界から観光客を十分呼べると思う。

●議員

- ・来年3月に、おおたかの森駅北口に3月完成予定のホール2階の市民窓口センター内に、観光案内所ができる。今のご意見を反映させていきたい

○市民 D

- ・市役所隣の「飛び地山」を、市で購入してほしい。

○市民 E

- ・人口推計で、自分の年代(40歳代)が一番多いのに、議会報告会には殆ど来ていない。もっとこの世代が関心を持つような取り組みが必要では？
- ・議会として、住民の無関心を改善する為の取り組みをしているか。

●議員

- ・会派として、年に2回、キャラバン隊として、意見交換の場を

設けている。

- ・北部地域では、新川耕地の物流倉庫関連の問題で、工業団地の方達にも来て頂き、様々な意見交換をし、それを契機に、協議会を立ち上げるなど、市政に反映させる事が出来た。

○市民 E

- ・会派で行ったキャラバンでは、若い世代の参加者の割合はどのくらいか

●議員

- ・50歳代の方も来ていたが、若い人も5~6人参加されていた。

●議員

- ・議会広報広聴特別委員として、SNSを活用し、情報発信している。

●議員

- ・それぞれの会派でも、SNSを活用した情報発信を行っている。

●議員

- ・世代ごとに関心の度合いが違うという認識は有る。議会報告会などは、議員のネットワークで人が集まるので、それぞれの議員の世代によって、集まる世代は違って来る。市民は若い方もいれば、高齢者の方もいるので、それは決して悪い事ではないと思う。 ●議員

- ・年齢や環境によって、市民ニーズは違う。テーマによって、一番興味が有る所に人が集まる。

●議員

- ・自分の所属会派で計画的に講演会を開催している。
- ・3・11の後の放射能問題の時期や、ホルムアルデヒド問題の時には、参加者が多かった。今後も、議員から発信していく。
- ・ここでの市民の意見を、一般質問で取り上げ、一步前進した事例がいくつもある。

●議員

- ・自分の所属会派は、現場で働く人の声を重視している

○市民 F

- ・5年間、ずっと、一般質問を傍聴してきた。すると、議員の考

えと、執行部の考えがわかる。

- ・ 条例や地方自治法をしっかりと学んでほしい。
- ・ 予算についても、年末毎度10億円ほどの補正を組んでいる。もう少し計画的な予算策定が必要ではないか。
- ・ 市の素案を作る前段階での情報提供をしてほしい
- ・ 議会は二元代表制なので、議会からも、策定の経過についても情報提供をしてほしい

○市民 G

- ・ 現在の流山市では、45%の人が市外に働きに出ている。今後10年間の税収の推移なども視野に入れた観点で、次期総合計画については、策定しなければならないのではないか。
- ・ 再度企業誘致について考える必要があるのではないか
- ・ 税収が脆弱。地場産業の実態が見えていない。
- ・ 流山市民が流山市で就労出来る為の、地場産業の醸成が必要なのではないか
- ・ 流山市には、長期計画に基づいた、産業立国となってほしい

●議員

- ・ 30年度の法人税は、役10億円で、納税件数は、3660社だった。
- ・ 個人市民税は増加しているが、法人市民税は低調なのが実情。

○市民 F

- ・ 緑は本当に減っているのか
- ・ 市の説明では、大きな森林は減少しているが、グリーンチェーン運動や、公園の適正配置により、緑の総量としては、けして減少していないとのことだが。

○市民 G

- ・ 物流倉庫が出来ることで、雇用の創出も有るが、新川耕地で、物流倉庫以外の業種も起業できるなど、付加価値の高い弾力的な運用できるよう法改正するなどして、企業誘致に取り組んでほしい。

● 議員

- ・ 今、斜面緑地側には第 6 物流センターまで計画されているが、旧野田有料沿いの江戸川沿いは農地となっているが、地権者の農業従事者からは、後継者不足などもあり、農地からの転用を望む声もある。

○ 市民 G

- ・ 第 5、第 6 次産業も含め、物流倉庫だけでなく、他の業種も、入れるようにした方が良いのではないか
- ・ 新川耕地の運河に近い地域は、資材置き場等になっているが、個人的には、グラウンド、テニスコート、合宿施設などにしてほしい

● 議員

- ・ 市として、企業誘致ができないかとの意見だが、ロジスティックは、あくまで大家さんなので、市がどこまで干渉できるのか、市に確認する。

○ 市民 G

- ・ インターから一定の圏内は物流に限られるという規制が有るという話も聞いた。

● 議員

- ・ それも含めて確認します。

○ 市民 H

- ・ 現在、流山で、実家の家業を手伝いながら子育てしている。
- ・ 税収が圧迫されている。民間とのコラボレーションを積極的に取り組んでほしい。
- ・ 民間が収益を得ながら、市と協同で取り組むことで、より、市民にとって付加価値の高い事業となる可能性があるのではないか。(機会と制度が必要。)
- ・ 議会でも I C T 化は進んでいると思うが、発信しているようで吸い上げる部分が I C T 化されていない。
- ・ 今回の議会報告会についても、実際、自分が、どのタイミングで、何について、どのくらい意見が言えるのか、事前の情報だけでは内容が見えない。

- ・子どもを夫に預け、議会報告会に参加する事は、忙しい生活の中で、自分の大切な時間を提供しているのもっと、会の内容の情報を含めて発信してほしい。
- ・10年後を見据えた課題が尖っていない。(明確でない)
- ・尖った課題を明確化している自治体は、発展している。
- ・まんべんなく多くの課題に取り組もうとすると、特色が無くなる。
- ・私が関わっている市民活動の場で、「流山市はすごいね」と、ほめてもらう機会があっても、課題については、一言で言い表す事が出来ない。(課題を尖らせていく取り組みが必要。)
- ・物流について、新しい10代、20代の起業の機会の提供をお願いしたい。

● 議員

- ・女性の起業家対象のセミナーや、補助金も有る。
- ・これにこりずに、又是非、議会報告会に来て頂きたい。

○ 市民 H

- ・神戸市では、お金は出していないが、実証実験できる場所の提供を実施している。
- ・仕組みが有れば、お金がなくても、起業できる

○ 市民 D

- ・消防団の問題
- ・流山市の組織であるにもかかわらず、自治会費から消防団費として、徴収されているが、本来、市で負担するべきではないか。

○ 市民 C

- ・以前は、大学を誘致しようという自治体が多くあった。
- ・走りながら考え、考えながら走ることが大事。
- ・物流倉庫、このままでは、何年後かには、いつか行き詰まる事態は必ず来る。その時を想定した対策を今から考えておく必要がある。

○ 市民 G

- ・インフラの老朽化や、外国人労働者の問題も、市として、しっかり取り組んでほしい。

○市民 I

- ・外国人労働者について、安い賃金で、重労働を強いる傾向がある。もっと、受け入れるには、地域のこととしてとらえていくべき

○市民 G

- ・2700人ぐらいの外国人労働者が流山市に暮らしている。学校での対応はどうか

●議員

- ・複雑化している

7 参加者から議会への要望

- ・次期総合計画については、議員の側からも、策定に向けた進捗状況を、折々情報提供をしてほしい。
- ・議会報告会の内容については、もう少し詳細な内容を情報提供してほしい。

8 所感（順不同）

●乾紳一郎議員

全体として、活発な議会報告会だったと思います。テーマである総合計画について、強い関心や意見を持つ方々の発言には私も学ばされるところがありました。

総合計画に市民の意見がどう反映されるのかについて、基礎的な資料として市民アンケートや無作為抽出による市民会議、中学生会議などの意見を汲み取ることなどはもちろん必要ですが、素案がまとめられていく過程、素案がまとまった後も、市民に公開し、市民参加を丁寧にやっていくべきだと思います。参加した市民の中で、素案が出来たら形ばかりのパブリックコメントやって当局が決めてしまうという印象を持っている方がいましたが、行政の意思決定過程での市民参加をもっと尽くしてほしいと思います。

議会としても市民の多様な意見を反映させられるよう、特別委員会を組織し、参考人質疑や「意見を聞く会」の開催など議会として市民参加の機会も設けながら、総合計画の審査をおこなう必要があると感じました。

●藤井俊行議員

初めて参加された方も反面、常連の方の参加も今回もあった。今後の議会報告会のあり方について考えていく必要がある。PTAの会合などや学童クラブ指定管理者、商工会議所、自治会連合会などに、こちら側から出張して行く出前議会報告会のようなものも考えたらどうだろうか。

以上

●加藤啓子議員

テーマが大きいせいか、老若男女の市民にお集まりいただき、闊達な意見交換ができた。私たち世代と違い、若い世代はデータによる費用対効果を求めており、毎日忙しい中子どもを預けてこの報告会で発言した事が市政に反映されなければ無駄な投資になるという意識がある事に改めて驚かされた。自治基本条例の策定や小山小建設時に比べて市民の意見を吸い上げる場が少ないとのご意見をいただき、もっともだと感じている。形ばかりの市民参加にならないように私たち議員もさらに市民の皆さまの声を聴く機会を増やしてまいりたい。

●近藤美保議員

「次期総合計画に向けて」というテーマで開催した。次期総合計画策定までのスケジュールと、これまでの議論、基礎調査結果について報告し、今後10年の流山市の構想について、意見を頂くための場とした。基礎調査結果からは、首都圏における少子高齢化の影響や、昼夜間人口比率が低いベッドタウンであること、生産緑地指定解除に伴う、他の自治体との地域間競争などが激化す

る可能性などを共有した。

これは、人口が増えている流山市であっても、自治体経営は厳しく、市街地・インフラの拡大があたり前の、右肩上がりの時代とは違う視点も必要であることを、市民の方にも考えて頂きたかった為である。しかしながら、設定したテーマが大きすぎて、市民の方々が発言するための素材にはならなかったことが反省点である。

総合計画という、市の将来を考える良い機会に、市民の方々が参画できるよう、しっかりとした課題整理と、きめ細やかな発信を実施していきたい。

● 齊藤真理議員

今回の議会報告会は、「次期総合計画」をテーマとした為か、参加された市民の方々の見識が高く、それぞれのご意見から、流山市の将来に深い関心と期待を持って下さっていることが伝わってきた。

さらに、お一人お一人が、「より良い街であり続けるための課題」についても、様々ご提案いただき、次期総合計画策定に、より、市民の総意を盛り込んだものとするためにも、貴重な機会となった。

反省点としては、質疑にもあったように、主催者である議員が、市民の方たちに対し、「貴重なお時間を頂きお越し下さっている」という認識を深め、会の内容についての事前の情報発信や、会の進め方など、より多くの方が、「来て良かった」と思っていただけの議会報告会となるよう、工夫していく必要があると感じた。

● 坂巻儀一議員

初めての参加者を含めてでも決して多い参加数ではなかったが、質問ならびに意見を申し出る参加者は多かったように思います。テーマに関する質問も何問かはされたが、どちらと言うと自由闊達なフリーディスカッションに望みたい参加者が多く見受けられました。

説明者である責務を感じてか、参加者の質問に対する応答や意見が他の委員会メンバーよりも出過ぎた感があった事はバランスを考えた上でも私自身の反省点であると感じます。

9 質疑の中で、「後日、執行部に確認させていただく」とお答えした内容についての答え

Q. 新川耕地について、インターチェンジから一定の圏内は、物流倉庫に限られるという規制があるという話を聞いているが、物流倉庫だけでなく、他の業種も入れるようにしてはどうか

A. 執行部に確認したところ、流山市都市計画マスタープランにおいて、新川耕地の基本方針として、常磐自動車道の北側で、主要地方道松戸・野田線の東側に位置する区域については、「自然配慮型産業系土地利用ゾーン」と位置付け、周辺自然環境や住宅地に配慮した、産業・流通系土地利用の形成に務めるとしています。

この方針を受け、市では「市街化調整区域における地区計画運用基準」を定め、土地利用者からの地区計画の申し出により、産業・流通施設を誘致する施設の設置を可能としています。

その結果、土地所有者から、主に「物資の流通に係る業務の用に供する倉庫、工場又は事務所」の建築を目的とした地区計画の申し出があったことから、市において地区計画を定め、物流施設が建築されています。

一方で、主要地方道松戸・野田線の西側に位置する区域については、営農環境に優れる「農業系土地利用ゾーン」として位置付け、農地の維持・保全に努めることとしており、農業以外の業種への活用は、現段階では難しいものと考えます。